



▲移築当初の旧徳山村民家

岐阜県博物館との関わり

岐阜県博物館元館長

高橋 宏之



博物館との関わりは旧徳山村民家の移築から始まりました。

当時、県教委文化課に勤務していた私は昭和六十年、移築予定の宮川家住宅を現地視察される廣田照夫博物館長さんに同行し、その後、県文化財審議委員で名古屋大の小寺武久先生による調査にもご一緒させていただきました。移築工事は昭和六十二年に実施され、九月十七日に竣工しました。

徳山ダムの建設が新聞紙上でも取り上げられることが多くなった昭和四〇年代の初め、少しでも記録をと始めた

徳山村民家の調査、その民家の一棟が博物館に移築され保存されることとなり、感慨深いものがありました。

次に博物館に関わったことは、白川村の山中で発見された恐竜足跡化石の保存について協議する恐竜化石保存対策協議会の立ち上げでした。

博物館の協力を得ながら、学識経験者としてこの分野に詳しい東大と横浜国大の先生に委員をお願いし、化石が発見された場所の関係から林野庁、環境庁、地元白川村等の方々、主催者側からは県教育長さんをはじめ博物館、文化課等の関係者が出席して協議会が開かれました。

会議では化石はそのままにしてレプリカを二組作製し、白川村と博物館にそれぞれ展示することになりました。現在、博物館のホールに展示されているのがそれで高さ二・八m、幅七m。平成二年七月十日には恐竜足跡化石レプリカの除幕式が行われています。

平成三年四月、十年ぶりに学校現場に戻りましたが、十年後の平成十三年四月、博物館長として勤めることになりました。

定年まであと二年間、対応すべき課題は幾つかありましたが、一日でも早く解決しなければと取り組んだのは博物館入口前の急な坂道でした。



厳しい財政状況の中ではありましたが、幸い多くの方々のご理解とご協力を得て、平成十三年十二月に予算が付き、スロープカーの工事に着手、翌三月に竣工しました。スロープカーは公募によって「らくらく号」と命名され、この月二十七日、運行開始式を挙げる事ができました。

この他、博物館勤務の平成十三・十四年度には特別展「あのころいた鳥」や「温泉展」「中山道展」等のほか、企画展や講座なども数多く、担当学芸員の緻密な企画のもと、素晴らしい活動があり、マイミュージアムギャラリーの展示も活気に満ちていました。また、福井県立恐竜博物館との交流や安土城考古博物館、斎宮歴史博物館等との資料紹介を通じた交流も精力的に行われました。

平成十五年三月に定年退職した後、最近では令和元年十月から旧宮川家住宅保存活用検討委員会の会議や屋根葺替工事等に関して、昨年十一月まで博物館へお邪魔する機会がありました。最後になりましたが、博物館及び博物館友の会の益々のご発展を心よりお祈りいたします。

令和5年度企画展

「美しき鉱物の世界」の開催について

岐阜県博物館 学芸部 熊澤 忍

今年度の冬の企画展では、「美しき鉱物の世界」と題し、これまで当館が世界各地から収集してきた鉱物を展示します。

地球は誕生してから46億年経つと考えられていますが、この長い地球の営みで生み出された鉱物は大地の至る所に眠っています。これらの鉱物は、資源として活用され、経済発展に大きく貢献するだけでなく、その美しさから装飾に使われるなど、人の目も楽しませてきました。

鉱物(岩石)には色彩が豊かなものや、結晶構造が美しいもの、鉱石(金属を得るために使われる鉱物・岩石)として使われているものなどがあります。そして、かつては岐阜県にも日本有数の鉱山があり、多くの鉱物が産出していました。

今回の展示では、綺麗な色や不思議な形の鉱物に加え、紫外線で発光するものや隕石なども展示します。特に、岐阜県で発見された鉱物や、新種の鉱物として話題となった北海道石、火星から飛来した隕石は必見です。当館が新たにコレクションに加えたものも多数展示しますので、この機会にぜひご覧ください。

この展示をとおり、自然がつくり出す美しさを感じて頂けることを願っています。

1 会期・時間・休館日

- ・ 令和6年1月20日(土)～3月17日(日)
- ・ 開館時間 9:30～16:30
- ・ 休館日 月曜日(2月12日(月)は振替休日のため、翌13日(火)が休館)

2 会場

岐阜県博物館 本館4階 企画展示室

3 関連事業

(1) 講演会

「日本の宝石鉱物 ―岐阜は宝石鉱物の宝庫―」

講師：石橋隆氏(大阪大学総合学術博物館招へい
研究員)

日時：令和6年2月18日(日)13:30～15:00

場所：けんぱくホール

(2) けんぱく教室

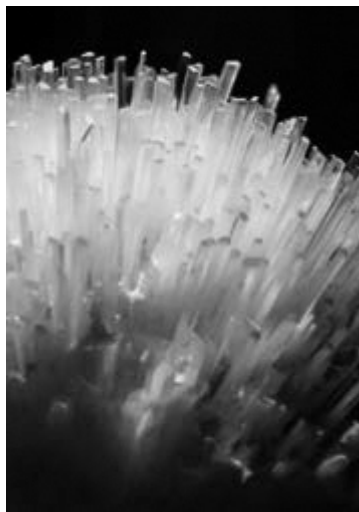
「ジオード割り体験」※参加費：800円

日時：令和6年3月2日(土)13:30～15:00

場所：講堂



▲新資料「ペンタゴナイト」。直径は1mm程度だが、透き通るような青色が実に美しい。その形は正に「地上の星」。



◀「スコレス沸石」。棘のような結晶が特徴。簡単に折れてしまうため、取り扱いには細心の注意を払う。

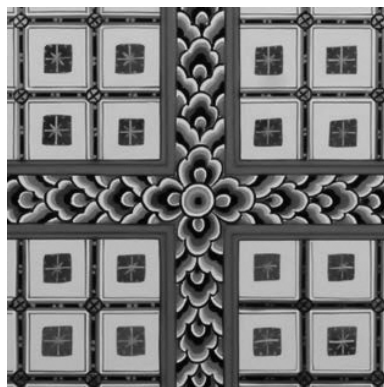
けんぱく・関市連携企画展

未来へ伝統をつなぐ ―関市の文化財―

岐阜県博物館 学芸部 松井 絵里子

令和6年2月3日から3月24日までけんぱく・関市連携企画展「未来へ伝統をつなぐ―関市の文化財―」を開催します。今回は、関市の文化財の紹介とともにその文化財が育まれた街の歴史や現代に継承された伝統技術についても紹介します。

今回の展示の一つに「大日山日龍峯寺多宝塔壁画彩色模写」（文化庁蔵）があります。日龍峯寺多宝塔は岐阜県内現存最古の木造建築物とされ、国の重要文化財に指定されています。多宝塔の内部は壁画が描かれ華やかに彩られていましたが現在はそのほとんどが剥落したため、平成21年度に文化庁の模写事業で馬場良治氏が模写を行いました。今回の展示では白描による模写（軸装）と着色による模写（額装）を前期・後期に分けて展示します。かつての壁画の様子が想像できる鮮やかな彩りをぜひご覧ください。



▲天井ノ子天井裏板天井格縁(部分)



▲方立(部分)

マイミュージアムギャラリー 第6回展示

「廃材がartに変わる

竹・木材のart ダンボール工作」

令和6年1月20日(土)～3月10日(日)

岐阜県博物館 学芸部 浅野 伸保

令和5年度の第6回目は、暮石樹さん、野倉光春さんによる「廃材がartに変わる 竹・木材のartダンボール工作」を開催します。

使われなくなった竹や木、ダンボールを材料に、その持ち味を活かして、昆虫、動物、恐竜、乗り物など様々な形を造ります。作者それぞれ作風に違いはありますが、廃材を上手く活用して、面白い形にすると言うコンセプトは同じです。

暮石樹さんは、ダンボールを使って恐竜や怪獣、童話をテーマに頭に浮かんだものを制作しました。野倉光春さんは、竹・木材を材料にリアルな昆虫、可愛い動物を制作しました。

両氏は、共に芸術は難しいものではなく、もっと身近な存在であることを知ってほしくて、楽しみながら日夜制作活動しています。



▲作品の一例

探訪の旅

復元された鶴丸城御楼門、復旧進む 熊本城、神話の里高千穂を訪ねる旅

探訪委員会

令和5年12月5日～7日に南九州3県を訪ねました。令和2年度に実施予定していたこの企画は、新型コロナ禍によるキャンセル・延期を経て、ようやく4年ぶりの実施となりました。参加者は20名でした。

12月4日(月)にセントレア隣接のホテルで前泊、5日(火)は中部国際空港から鹿児島空港へ飛び、仙巖園、西郷南洲顕彰館・南洲墓地・南洲神社、維新ふるとと館、桜島、鶴丸城御楼門を見学し鹿児島市内泊。車窓から薩摩義士碑も。6日(水)は人吉海軍航空基地跡・ひみつ基地ミュージアム、水前寺公園、熊本城、田原坂西南戦争資料館、阿蘇神社を巡り阿蘇内牧温泉泊。阿蘇神社は関市の福留刀匠さんらが復元した失われた名刀「蚩丸」ゆかりの神社でもあります。バスガイドさんに川上哲治氏の熊本工業高校、「村神様」の九州学院高校、建設中の半導体工場等々、さらには豪雨災害や熊本地震の爪痕を車中から紹介していただきました。7日(木)は阿蘇の山並みを往復の車窓から眺めながら移動。高千穂神社・高千穂峽を訪れた後、阿蘇熊本空港から名古屋空港へ。万歩計も大活躍の旅でした。

参加者の皆さまに一口感想をいただきましたのでご紹介いたします。なお、紙面の都合で一部割愛・編集させていただきました。どうぞご容赦願います。

- ・夜中には雨に見舞われましたが、日中は晴天に恵まれ、参加者の心がけの良さとお天気のお神様に感謝する旅でした。(SG)
- ・歴史を訪ねる旅、毎回満足しています。今回は日本一の鶴丸城御楼門の復元が地元関市の建設会社でとても誇らしく思いました。(II)
- ・2018年4月に西郷どん・大河ドラマのブームの時、ほとんど同じコース(中略)を経験。当時は鶴丸城の



▲フェリーの航跡と桜島

無数の銃弾跡を車内で見て通過するのみでした。また、桜島も車内で遠方の景色をながめるものでした。



▲鶴丸城 御楼門前にて

(中略) 今回は熊本城に登れ、桜島にも渡航でき、何よりも県博物館で展示紹介されていた御楼門をいつか見てみたいと思っていましたが、念願が叶い、ご本人様の説明を受けましたのが最大の成果でした。(YK)

- ・鶴丸城御楼門を実際につくられた亀山様の説明を拝聴(中略)。とりわけ礎石の面の形にあわせるように柱の底面を調整する技術を、伝統的技術と最新技術をもつての説明が勉強になりました。(IT)
- ・御楼門の大きいのにビックリした。良質な木材の調達には苦労されたことだろう。また、礎石の形に合わせた柱の削り(中略)の技術力は素晴らしい。(HM)
- ・とても柱が太くて説明を聞きたいへんな仕事をされてたんだなぁと感動しました。(TH)
- ・四年ぶりの探訪の旅は具沢山の旅でした。高千穂峽、熊本城といまだに地震の爪痕が残る場所では作業が続いていました。人吉の海軍ひみつ基地は戦後の人間として当時の生活が偲ばれショックを受けました。戦争をしている国に一日も早い平和が来ますように。(KK)
- ・人吉海軍航空基地、太平洋戦争中球磨盆地に建設さ



▲人吉海軍航空基地の壕入口前

れた秘密基地で飛行予科練生の教育や訓練、海軍工廠など様々な役目を持った部隊が村一つ分のエリアの中で活動していたという貴重な戦争遺跡。関連して、規模は小さいですが関市にも陸軍の秘密飛行場がありました。関高校地

域研究部が調査、全国大会で発表しました。(NO)

- ・(田原坂西南戦争資料館に関連して日本赤十字社創設についての) 巽先生の思いのこもった説明もお聞きできて良かったです。(KS)

- ・心地よい疲れと共に帰宅したら、テレビがNHKの



▲式典前夜の阿蘇神社にて

ニュースを放送、何と「阿蘇神社の楼門完成式典」の中継でした。荷物もほどこさず棒立ちで見続けました。今回の旅は

見所満載で、日本の激動時代を駆け抜けた人々の思いに浸ることができた三日間でした。(後略) (KM)

- ・やっとかなった天孫降臨の地高千穂、日本の始まり。亀山建設施工の鶴丸城御楼門、竣工なった熊本城天守閣からの



▲熊本城天守閣前にて

眺め、すべて最高の旅でした。(TK)



▲高千穂峡の柱状節理

- ・天孫降臨の地が霧島の高千穂の峰と宮崎県の高千穂町の二説があるが、いずれにせよ古代日本の草創のロマンを感じました。(YK)

・2泊3日の短い旅行でしたが、一般の観光旅行では見学できないような場所や施設を数多く見ることができ、どこも素晴らしく、心の中に数多くの素敵な宝物ができました。(後略) (YI)

- ・南九州の自然や名所旧跡、歴史ある建造物など、たくさん見学することができ感動の連続、良い勉強ができました。(NO)



▲飛行機から見た阿蘇山

会員の声

大井ダム竣工100周年記念

11月10日野外公演に向けて

創作オペラ「貞奴」プロジェクト事務局長 岐阜県博物館友の会会員 藤田 敦子

新型コロナ禍真っ最中の三年前、川上貞奴生誕150周年記念オペラ「ドラマチック木曾川」初演事業を伊藤青少年育成奨学会様の助成金に採択いただき贈呈式に出席した際、恵那市観光協会の方と知り合い、2024年は福沢桃介さんや貞奴さんらが取り組んだ大井ダム・大井発電所(そして恵那峡)の竣工100周年ですね、という会話をしました。私たちの活動拠点の各務原にある、貞奴さんが創建した貞照寺の本堂の堂羽目浮彫の最後の一枚は大井ダムの完成をお不動様に祈る貞奴さんで、霊廟前の観音立像は大井ダムを向いているといわれています。いつかは恵那でも上演できたら…と思っていました。

二年前の秋、2024年の国民文化祭が岐阜県開催と聞き、また、恵那市観光協会主催で「恵那峡もみじまつり」が毎年11月に催されていること(恵那峡再活性化の一端)を知り、国民文化祭参加作品として、恵那峡もみじまつりで、大井ダム建造をメインテーマとしたコンサート形式のオペラ公演を行いたいと恵那市観光協会に提案しました。なにしろ「流水にもみじ」は貞奴さんが好んだ自らを表す意匠(デザイン)でもあります。

2023年には台本づくりも一段落し、現在、新作部分の作曲および既存曲の練習に入っています。昨秋には、試演もでき、雄大な恵那峡をバックに歌う高揚感、会場の様子、音響などの課題等もわかり、11月10日(日)の本番に向けて仕上げていきます。野外の無料公演なので、気軽に立ち寄ってもらえると嬉しいです。



(2023年11月12日の恵那峡もみじまつりでの合唱)

百年公園の「葉や実で遊ぼう」を 実施しました

岐阜県博物館 学芸部 則竹 裕嗣

今年度、百年公園の進入路整備工事により、例年実施している、公園での「秋みつけ」体験プログラムは活動範囲が縮減され、十分な活動ができませんでした。

そこで、「秋みつけ」の代案として、百年公園で見つかる植物を利用したおもちゃを当館職員が制作し、児童に遊んでもらう活動を位置付けました。小学校1、2年生の生活科の学習では、「身近な自然に目を向け、興味・関心をもって観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化を体全体で感じ取り、季節によって生活の様子が変わること」に気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする」ことを目指す目標の1つに挙げられています。百年公園で見つけた手よりも大きな「ホオノキ」の葉や、「アベマキ」「コナラ」などのどんぐりの実を見つけ、自然の移り変わりに気付くだけでなく、その気付きを発展させ、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができることをねらっています。



上の写真は「ホオノキ」の葉を生かした福笑いと「アベマキ」の実を生かした迷路を遊んでいる様子です。

このように博物館では百年公園の自然を生かした活動を来園・来館する学校・団体に紹介することで、博物館の魅力をより身近に感じることができると思っています。

友の会の皆様におかれましては、百年公園の自然を生かした活動についてご助言、ご支援いただければ幸いです。令和7年度に岐阜県では初となる「全国都市緑化フェア」が開催され、百年公園は会場の1つとなっています。新たな公園へと進化している百年公園および岐阜県博物館にぜひお越しください。

岐阜県博物館からのお知らせ

2月～3月の展示・行事のお知らせ

◆企画展

「美しき鉱物の世界」

1月20日(土)～3月17日(日)

※本誌2ページに詳細な紹介があります。

◆けんぱく・関市連携企画展

「未来へ伝統をつなぐ ー関市の文化財ー」

2月3日(土)～3月24日(日)

※本誌3ページに詳細な紹介があります。

◆マイミュージアムギャラリー展

「廃材がartに変わる 竹・木材のartダンボール工作」

1月20日(土)～3月10日(日)

※本誌3ページに詳細な紹介があります。

◆博物館SNSについて

X(旧Twitter)に加え、Instagram、フェイスブックも開設しています。次のQRコードからアクセスしてください。



▲Facebook



▲Instagram

友の会事務局からのお知らせ

★令和5年度後期友の会の主な活動について

○秋季理事会の報告

10月12日(木)に開催され、①令和5年度会務中間報告、②一般会計・特別会計中間報告、③後期の会務、について承認していただきました。「七草がゆを食べよう」については七草がゆ委員会で検討し、理事会に報告し決定することとなりました。その結果、感染症予防についての懸念が払拭できないため実施しない方がよいと考え、中止としました。

○12月5日(火)～7日(木)探訪の旅

「復元された鶴丸城御楼門と神話の里高千穂を訪ねて」

※本誌4～5ページに報告があります。

○2月 探訪委員会

○3月9日(土)会長・副会長会議